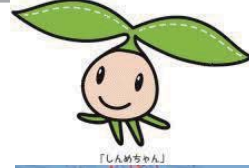


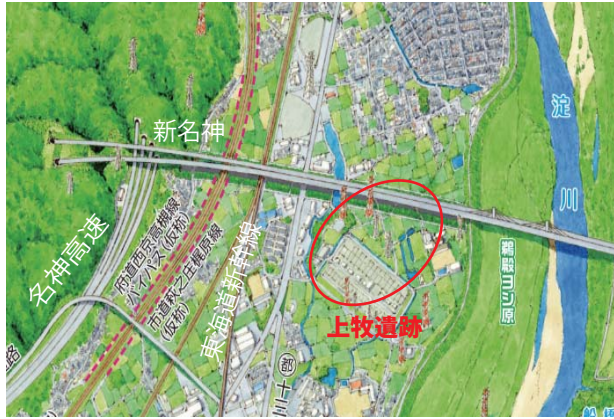
～上牧遺跡の埋蔵文化財の発掘調査を進めています～



新名神大阪東事務所だより

平成30年7月号

～上牧遺跡の概要～



上牧遺跡は、高槻市の北東部の淀川の北岸の川岸に近いところに位置しています。1970年代にはじめて遺跡の存在が知られるようになり、発掘調査によって古墳時代(平安～鎌倉時代)の集落跡が存在することが確認されています。この調査がおこなわれた当時は中世遺跡の調査事例が乏しく、まとまった調査事例として全国的にも有名な遺跡です。

今回の発掘調査では、主に古墳時代初頭から後期初頭までの集落跡や中世の耕作地の様子が徐々に明らかとなっており、特に古墳時代については竪穴建物や掘立柱建物、井戸など生活にかかわる痕跡がまとまってみつかっています。

～発掘調査の様子～



周溝を伴う大型掘立柱建物
古墳時代中期後半頃(5世紀後半:約1550年前)



井戸から出土した壺と甕
古墳時代前期初頭頃(3世紀後半:約1750年前)

～発掘調査の状況などを担当者にお聞きしました～

Q.ここまでの発掘の進捗状況は?

A. 調査開始から半年ほどが経過し、おぼろげながら遺跡の全体の様子がわかってきました。生活の痕跡を示す建物の跡や土器などの遺物類がまとまってみつかり、これからの調査にも期待が持てます。

Q.これまでの上牧遺跡の発掘調査でわかったトピックスをいくつかあげてください。

A. まず、今回調査をおこなっている上牧遺跡周辺は淀川の河岸にありながら、はやくから地形が安定していたことが明らかとなり、壊滅的な大洪水が意外と少なかったことがわかりました。これが淀川沿いの地域のイメージを変えるひとつの驚きです。

次に古墳時代の集落がまとまって確認されましたが、特に古墳時代初頭から後期初頭の350年近くに及ぶ長い間(約1850年～1500年前)、浸水被害の少ない高台を転々としていたことがわかりました。周辺には、中国魏代の青龍三年(235年)の紀年銘鏡や三角縁神獸鏡がまとまって出土した安満宮山古墳(3世紀後半ごろ)などがあり上牧遺跡との関係性も注目されています。



笹栗 拓さん
(公益財団法人大阪府文化財センター)
大阪府文化財センターに入所して8年目の若手調査員。
新名神高槻IC・JCTの発掘調査(成合遺跡ほか)などにも携っており、高槻・茨木界隈での調査経験が豊富。
特に古墳時代のお墓や土器などに興味を持っています。

今後とも皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

●お問い合わせ窓口●

西日本高速道路株式会社 関西支社
新名神大阪東事務所
〒573-1171

大阪府枚方市三栗 2-5-1

TEL.072-809-4740 FAX.072-809-4741

私たちはリスクマネジメントを徹底し、高速道路の安全・安心を最優先に、お客様の満足度を高め、地域の発展に寄与することにより、社会から信頼され成長する企業グループをめざします。

ホームページ

NEXCO 西日本
新名神事業の紹介

<https://www.w-nexco.co.jp>

みち、ひと…未来へ。



古墳時代の集落跡の調査の様子(南東方向から)